

奄美群島沖永良部島から得られたモンガラカワハギ科ソロイモンガラ

川間公達¹・本村浩之²¹ 〒 894-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学大学院水産学研究科² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

■ はじめに

モンガラカワハギ科ソロイモンガラ属 *Melichthys* は、口が端位であること、歯が白いこと、両顎の先端の歯が門歯状であること、鰓孔後部に骨質の肥大鱗があること、眼前に1縦溝があること、背鰭第3棘が短く体背縁からわずかに突出することなどの形質によって特徴づけられる (Matsuura, 1980, 2014)。本属は世界で3種が知られ (Matsuura, 2014)、そのうち、日本国内からはソロイモンガラ *M. niger* (Bloch, 1786) とクロモンガラ *M. vidua* (Richardson, 1845) の分布が確認されている (林・萩原, 2013)。

2017年7月6日に沖永良部島沖から1個体のソロイモンガラが採集された。本標本は鹿児島県における本種の標本に基づく初めての記録となるため、ここに報告する。

■ 材料と方法

標本の計数・計測は、Matsuura (1980) にしたがった。標準体長は体長と表記し、体各部の計測はデジタルノギスを用いて0.1 mmまでおこなった。ソロイモンガラの生鮮時の体色の記載は、固定前に撮影された沖永良部島産標本 (KAUM-I. 101800) のカラー写真に基づく。標本の作成、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) にしたがった。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合

研究博物館に保管されており、上記の生鮮時の画像は同館のデータベースに登録されている。本報告中で用いられている研究機関略号は以下の通り: HMNH (比和町立自然科学博物館); KAUM (鹿児島大学総合研究博物館); TUFO (東京海洋大学)。

■ 結果と考察

Melichthys niger (Bloch, 1786)

ソロイモンガラ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 101800, 体長 254.0 mm, 鹿児島県沖永良部島国頭沖 (27°25'27"N, 128°42'32"E), 水深 20 m, 2017年7月6日, 釣り, 川間幸男・川間力士。

記載 頭部縦列鱗数 22; 体側縦列鱗数 58; 背鰭鰭条数 III, 33; 臀鰭軟条数 26; 胸鰭軟条数 16。体各部の体長に対する割合 (%) 最大体高 53.0; 臀鰭起部における体高 47.1; 頭長 19.1; 吻長 20.9; 眼径 4.1; 鰓孔開孔長 7.2; 吻端から第1背鰭起部までの距離 29.8; 吻端から第2背鰭起部までの距離 56.5; 吻端から臀鰭起部までの距離 65.0; 吻端から腹鰭起部までの距離 53.3; 第1背鰭と第2背鰭間の距離 24.8; 第2背鰭基底長 41.2; 臀鰭基底長 35.4; 背鰭最長軟条 (第3軟条) 長 18.7; 臀鰭最長軟条 (第4軟条) 長 18.7; 胸鰭軟条長 12.0; 尾柄高 9.2; 尾柄長 12.2; 尾鰭長 26.5。

体は前後方向に長い卵型で強く側扁する。体背縁は吻端から第1背鰭起部までは弧を描きながら上昇し、そこから第2背鰭起部までは緩やかな弧状。その後、体背縁は第2背鰭起部から尾柄部中央にかけて下降し、尾鰭基底にかけて再び上昇に転じる。体腹縁は吻端から腹鰭起部にかけて急

Kawama, K. and H. Motomura. 2018. First record of *Melichthys niger* (Tetraodontiformes: Balistidae) from Kagoshima Prefecture. *Nature of Kagoshima* 44: 265–268.

✉ HM: the Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp).

Published online: 27 Mar. 2018

http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_044/044-036.pdf



Fig. 1. Fresh specimen of *Melichthys niger*. KAUM-I. 101800, 254.0 mm standard length, off Kunigami, Okinoerabu-jima island, Amami Islands, Kagoshima Prefecture, Japan.

激に下降し、腹鰭後方から尾柄部中央にかけて上昇し、尾鰭基底に向け再度下降する。胸鰭は楕円形で、その基底上端は鰓孔下端直下に位置する。腰骨後端には鞍状鱗を有する。第1背鰭起部は鰓孔直上、第1背鰭基底後端は胸鰭後端直上にそれぞれ位置する。第1背鰭は第1棘が最長で、第2棘は第1棘の半分程度の長さ。背鰭第3棘は小さく、体背縁からわずかに突出する。第2背鰭起部は肛門の直上、第2背鰭基底後端は臀鰭基底後端直上にそれぞれ位置する。第2背鰭背縁は起部から第3軟条後端にかけて急激に上昇し、その後、最後軟条後端にかけて緩やかに低くなる。背鰭軟条は第1と第2軟条を除き、全て分枝する。臀鰭起部は背鰭第4軟条起部直下に位置する。臀鰭外縁は起部から第3軟条にかけて急激に下降したのち、緩やかに上昇する。臀鰭軟条は第1から第3軟条を除き、全て分枝する。尾鰭は二重湾入型で、両葉の後端はやや伸長する。口は端位でやや上を向く。両顎の先端の歯は門歯状。眼の前方に縦溝がある。鰓孔後方、胸鰭上方に肥大した骨質鱗が

ある。

色彩 (Fig. 1) 生鮮時の色彩 — 体は一様に黒色。吻部から眼後方の背部にかけての鱗は淡い山吹色を呈する。眼を中心に、前方から上方にかけて放射状に灰青色帯がある。眼よりも下方の頭部側面と体側後部の鱗は暗い桃色で縁取られる。下顎先端から肛門にかけての体腹面と眼の後方から第2背鰭起部前方にかけての体側上部の鱗は空色に縁取られる。歯は白色。各鰭は黒色。第2背鰭基底部と臀鰭基底部にそれぞれ体背縁と体腹縁に平行な白色線がある。尾鰭後部には、尾鰭後縁と平行な細い白横線がある。

固定後の色彩 — 体側各部の淡色部は消失し、体側は一様に暗色となる。各鰭は濃い茶褐色。第2背鰭基底部と臀鰭基底部の白色線は明瞭。

分布 本種は三大洋の熱帯域に広く分布する (Matsuura, 1980, 2014; 松浦, 1997; Allen and Erdmann, 2012; 林・萩原, 2013)。国内では、これまで南鳥島、小笠原諸島 [小笠原群島、火山列島 (北硫黄島, 硫黄島, および南硫黄島)], 大東

諸島（南大東島）、沖縄諸島（沖縄島）、八重山諸島（西表島）、および尖閣諸島から報告されており（青柳, 1950; Matsuura, 1980; 東京都水産試験場, 1994; Randall et al., 1997; 松浦, 1997; 吉郷, 2004; 林・萩原, 2013）、本研究により、奄美群島沖永良部島における分布も確認された。

備考 沖永良部島産の標本は、鰓孔後部に骨質の肥大鱗があること、眼の前方に1縦溝があること、両顎の先端の歯は門歯状であること、背鰭第3棘が著しく小さいことなどが Matsuura (1980) によって定義された *Melichthys* 属に同定された。また、第2背鰭と臀鰭が黒くその基底に白色線があること、尾鰭両葉がやや伸長すること、および尾鰭後縁が白く縁取られないことが Matsuura (1980) や Allen and Erdmann (2012)、林・萩原 (2013) の報告した *M. niger* の標徴とよく一致したため、本種に同定された。ソロイモンガラは唯一の日本産同属種であるクロモンガラと体が一樣に黒いことで類似する。しかし、ソロイモンガラは尾鰭両葉後端が伸長すること（クロモンガラでは尾鰭が截形）、第2背鰭と臀鰭が一樣に黒色を呈し、基底部に白色線があること（第2背鰭と臀鰭は一樣に白色を呈し、外縁が黒色に縁取られる）によって識別される（林・萩原, 2013）。

現在、*M. niger* に対して用いられる和名ソロイモンガラを提唱したのは蒲原 (1940) である。彼は本種の学名を *M. radula* (Solander, 1848) とし、本種が琉球列島で採集された記録があったとした（詳しい産地は不明）。青柳 (1950) や吉野ほか (1975) もソロイモンガラの学名として *M. radula* が使用されたが、Berry and Baldwin (1966) によって *M. radula* は *M. niger* の新参異名であることが明らかにされた。

青柳 (1950) は沖縄島から、Matsuura (1980) は南鳥島から得られたソロイモンガラ2個体 (TUFO-1151, 1158) を報告した。火山列島では、西村ほか (1988) が北硫黄島から、東京都水産試験場 (1994) が硫黄島と南硫黄島においてソロイモンガラが目視観察されたことを報告した。松浦 (1997) は西表島の水深7mにおいて撮影された本種の水中文を報告した。吉郷 (2004) は南大

東島西岸の山羊道から得られた本種1個体 (HMNH-P 6564) を報告した。林・萩原 (2013) はソロイモンガラの国内における分布域を総括すると同時に、本種の尖閣諸島における分布を報告した。したがって、本研究で記載した沖永良部島産標本は鹿児島県における本種の初めての記録となる。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、標本の採集に際しては沖永良部島在住の川間幸男氏、川間力士氏、鹿児島大学水産学部の川路由人氏、中村潤平氏、および森下悟至氏にご協力いただいた。原口百合子氏をはじめとする鹿児島大学総合研究博物館ボランティアと畑 晴陵氏をはじめとする同博物館魚類分類学研究室の皆さまには適切な助言を頂いた。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部はJSPS科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265)、JSPS 研究拠点形成事業－B アジア・アフリカ学術基盤形成型、国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」、文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」、および鹿児島大学重点領域研究環境（生物多様性・島嶼プロジェクト）学長裁量経費の援助を受けた。

■ 引用文献

- Allen, G. R. and Erdmann, M. V. 2012. Reef fishes of the East Indies. Vols. 1-3. Tropical Reef Research, Perth. xiv + 1292 pp.
- 青柳兵司. 1950. 琉球列島産珊瑚礁魚類の研究 7. ツバメウヲ科, ヒメツバメウヲ科, モンガラカハハギ科, アキゴ科, カハハギ科, カサゴ科. 動物学雑誌, 59 (5) :118-122.
- Berry, F. H. and Baldwin, W. J. 1966. Triggerfishes (Balistidae) of the eastern Pacific. Proceedings of the California Academy of Sciences, Series 4, 34 (9): 429-474.
- 林 公義・萩原清司. 2013. モンガラカワハギ科. Pp. 1703-1711, 2235-2236. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 蒲原稔治. 1940. 魚綱・真口亜綱・硬骨魚目・堅皮類. Pp. 1-112. 岡田弥一郎・内田 亨・江崎悌三 (編). 日本動物分類, 第15巻, 第2編, 第3号. 三省堂, 東京.

- Matsuura, K. 1980. A revision of Japanese balistoid fishes. I. Family Balistidae. Bulletin of National Science Museum, Series A (Zoology), 6 (1): 27-69.
- 松浦啓一. 1997. ソロイモンガラ *Melichthys niger*. Pp. 688-689. 岡村 収・尼岡邦夫 (編). 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- Matsuura, K. 2014. Taxonomy and systematics of tetraodontiform fishes: a review focusing primarily on progress in the period from 1980 to 2014. Ichthyological Research, 62 (1): 72-113.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- 西村和久・三木 誠・木村ジョンソン. 1988. 1986年北硫黄島磯根漁場調査. Pp. 1-23. 東京都水産試験場技術管理部 (編). 北硫黄島磯根漁場調査報告書. 東京都水産試験場, 東京.
- Randall, J. E., Ida, H., Kato, K., Pyle, R. L. and Earle, J. L. 1997. Annotated checklist of the inshore fishes of the Ogasawara Islands. National Science Museum Monographs, 11: 1-74.
- 東京都水産試験場. 1994. 小笠原海域天然礁調査報告書 (硫黄島・南硫黄島浅海漁場調査). 東京都水産試験場調査報告, 208: 1-66.
- 吉郷英範. 2004. 南大東島で確認されたタイドプールと浅い潮下帯の魚類. 比和科学博物館研究報告, 43: 1-51.